

コミュニティ・レストランとの出逢い

〜愛媛にコミュニティ・レストランを〜



えひめ地域政策
研修センター
主任研究員

須山 広周

1 一本の電話

「まちづくり関係の主任研究員さんのお耳に入れておきたい話があるんですが…」その電話がかかってきたのは、私がこのセンターに配属された4月に入ってすぐのことであった。

その電話の相手は慶応芸術事業会の茂木さんという方で、私たちセンター設立時の初代常務理事として、今のセンターの礎を作ってください方でもある。

その時の私は、センターの仕事について本当に右も左も分からない状態で、正直どのような話が見当もつかず、恐る恐る電話を受けた記憶がある。

話の中身を端的に記すと、「11月に松山で全国コミュニティ・レストランの全国大会があって、それに何らかの協力をもらえないか」ということであった。

「コミュニティ・レストラン？」
はじめて聞く名称に少し驚きつつ、検討してみるの時間をいただきました旨お伝えし、受話器を置いた。

2 重なる偶然

私の中では、「コミュニティ」と「レストラン」はともに聞いたことがあっても、それをつなげた言葉としては初耳である。

「一体どういうものだろう？」興味が出てくる。と同時に「調べてみようよ」そう言ってくるもう一人の自分がいた…。

コミュニティ・レストランについていろいろと調べているうちに、たどり着いたのが、元祖として知られている「でめてる」というお店である。

その「でめてる」のページを見ていて、あの偶然に気がついた。
「でめてる」は、東京都の国分寺市にあるという。

実は、このセンターに配属される前、私は県の東京事務所勤務していた。

その時にマンションを借りて住んでいたのが国分寺で、私は、この3月まで住んでいたところなのだ。
しかも、場所を見ると、国分寺在住

時代、私自身が気付かないまま何度も「でめてる」の前を通っている…。

日本狭しといえども、こんなに身近なところにコミュニティ・レストランの発祥の地があったことに驚いた。

さらには、「でめてる」の横にコミュニティ・レストランを普及するプロジェクトを実践している「NPO 研修・情報センター」の事務所があるのだが、この事務所が国分寺に移転してきたのが今年の3月15日となっている。

別に大したことはないと言われればそれまでであるが、私たちのセンターが現在の場所に移転したのも今年の3月15日だったのである。

「この偶然、何かある」…そう私は確信した。

3 世古さんとの出会い

いろいろと調べてはみたものの、いまいち「コミュニティ・レストラン」なるものの理解が深まらなかった（確たるイメージが湧かなかった）私は、世古さんとの出会い

でその部分を払しょくすることになる。

世古さんが松山に来られた際、コミュニティ・レストランの実例を見せていただき、その考え方や地域における位置付けといったお話を聞かせてもらったことで、かなりイメージしやすいものとなった。

地域の課題を解決するための、食を中心とした地域の新しいコミュニティづくり、コミュニティの再生の核となる機能を有するレストラン

そう理解することで、私の中でモヤモヤしていたものが取っ払われたのであるが、聞いてみると、そういった機能を持つレストランが愛媛にはないという。

地域づくりに関する支援を行っている当センターが、愛媛にないものを広めていくことに参画できる。

うちのセンターにとってもいい機会だと思いい、コミュニティ・レストラン全国フォーラムへの共同開催という形で参画することとなった…。

4 愛媛に「コミュニティ・レストラン」を！

全国フォーラムへの参画という形で支援させていただくこととなったが、愛媛に普及していくに当たって他に何かできることはないかと考えたところ、この「舞たうん」で「コミュニティ・レストラン」特集として掲載できないかと思いはじめたことがきっかけとなり、こうして全国フォーラムの告知を含めて特集を掲載することとなった。

そこで、まずは基調論文として、世古さんにコミュニティ・レストランとは何かといった点や課題としても挙げられる中間支援組織の必要性などについて書いていただき、続いて、実際に中間支援組織として活躍されている伊藤さんにその状況を書いていただいた。

また、いろいろな場所に足を運んで話を聞いてみると、愛媛にも「コミュニティ・レストラン」的要素をもったところが多くあることが分かったことから、この後の「特集①④」において、それぞれのお店のコンセプトや将来に向けた展望等を紹介することとした。

さらには、コミュニティ・レストランをこれから設立したいという方々の悩みやなどについて座談会形式で実施したものを掲載している。

これらの事例紹介により、コミュニティ・レストランへの理解を深めていただくとともに、地域の課題解決やコミュニティづくりの一つのツールとして、愛媛にコミュニティ・レストランが普及していく一助となれば幸いである。

5 終わりに

先日、「リアル熟議」という会議が松山市内で開催され、私も参加させていただいた。熟議とは、「問題に関わる当事者が集まり、熟慮して討議することにより政策を形成していくこと」を趣旨としているが、参加

当日の議題である「これからの小中学校を良くするために私たちができること」を熟議していくうちに、地域と学校の更なる連携が必要なのは？との意見が多く出された。

世古さんのいう、「歩いて行ける場所、小学校区単位に一つくらいのコミレスを実現したい」とことと直結させるかどうかは疑義があるかもしれないが、「コミュニティ・レストランを学校と地域を結び付けるツールとして捉えていくことも一つの方法ではないか」と思うようになった。

例えば、学校内で放課後を活用したコミレスや公民館の一室を活用したコミレスができないか。また、PTAやまちづくり協議会のような組織の中に組み込んだ形での運営できないか。といったことについて検討する余地は十分あると思われる。

コミレスに生徒や生徒の親、地域住民が立ち寄っているいろいろな話をする中で、地域が学校を支える、或いは、地域と学校の連携を深めていく場を作り上げることも可能ではないだろうか。

このように、考えようによっていくつもの引き出しを持つ「コミュニティ・レストラン」は、地域課題の解決方法として斬新なものであり、コミュニティの再生はもとより、そこから地域の活性化に波及する大きな可能性を秘めていると私は思うのである。